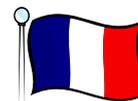


2007年世界ジュニア選手権報告書

(フランス ラ・グラード)



はじめに

第25回世界ジュニア選手権大会が9月3日～8日の間、フランスのラ・グラードで開催されました。その大会に岡山大学ウェイトトレーニング部から6名の選手（女子：黒田、伊賀、真野、男子：小関、長瀬、三宅）が日本代表選手として選出され、2名（岡村、藤谷）がセコンドとして同行いたしました。

これより、世界大会で得ることのできた素晴らしい体験や選手・セコンド達の声を皆様にご報告していきますのでお楽しみください。



後列左から：藤谷、真野、岡村、長瀬
前列左から：伊賀、三宅、小関、黒田

～選ばれし6名の選手～

まず、世界大会に出場するためには全日本ジュニア選手権大会で2位以上になり、日本代表選手に選抜されないといけません。そして、その難関を乗り越え世界大会へと出場を果たした6名の選手を簡単にですが紹介したいと思います。

女子48kg級 4回生 黒田幸恵

昨年の世界大会ではベンチプレスで銅メダルを獲得。今年は確実に本数をとることを目標に練習に励んできました。

女子60kg級 4回生 伊賀梓

今年が初出場。得意のベンチプレスでメダルを狙います。

女子75kg級 4回生 真野めぐみ

今年が初出場。自分のもてる力を十分に発揮し、大会を楽しむことが最大の目標です。

男子52kg級 4回生 小関祐生

昨年の同大会男子52kg級の世界チャンピオン。昨年に続いて、2年連続での総合優勝を目指して、練習に励んできました。

男子60kg級 3回生 長瀬健太郎

今年初出場で唯一の3回生。しっかりと成功のできる試技を目指し練習に励んできました。

男子75kg級 4回生 三宅徹

昨年ベンチプレスで金メダル獲得。さらに、今年の世界ベンチプレス選手権では銅メダルを獲得しています。みんなに金メダル獲得宣言をして自分にプレッシャーをかけ、やる気を奮い立たせました。

～勝利に導いた2人のセコンド～

コーチ 岡村聡晃

選手として何度も世界を経験しています。今回初のセコンドとしての世界大会参加ですが、今までの経験を生かし日本選手団全員を勝利へと導きます。

3回生 藤谷崇弘

世界大会初体験です。セコンドとして経験は少ないですが、練習時から常に選手とコミュニケーションをとり、今大会に挑みました。

～ボンジュール♪フランス～

今回の移動は、岡山→成田で一泊→成田空港→（約10時間）→ドイツ国フランクフルト空港→（約1時間）→フランス国マルセイユ空港→（バスで約2時間）→ラ・グラードと非常に長いものでした。フランスと日本との時差は7時間で、平均気温は日本よりも少し低く、乾燥しているため過ごしやすい環境でした。



美しいフランスの町ラ・グラード

また、今回宿泊した施設がホテルというよりはコテージのようなところで、お風呂がシャワーだけというものでしたが、キッチンが充実していたため料理には困りませんでした。しかし、ホテルの朝食が毎日フランスパンであり、同じメニューというのが少しくつまりました。



朝食は毎日同じメニューでした・・・

～実況パワーリフティング!!～

今大会は参加人数が過去最多 394 人となるうえ、昨年ドーピングで出場停止となっていた、ロシア、ウクライナという強国が満を持して出場してきたため、日本人選手にとってとても厳しい戦況が予想されていました。

試合会場は、ライトアップされ、アップ場も広く選手にとって最高の舞台が整っていて、あのような素晴らしい会場で試合ができたことは本当によかったです。



ライトアップされた試合会場

～大会1日目～

日本人選手の初陣を切ったのは、女子 48kg 級黒田。持病の腰痛をスクワットで悪化させるという不安を抱えながらも、昨年の経験を生かした安定した試技を見せました。ベンチプレスで 2 年連続での銅メダルを獲得し、トータル計 7 本成功という結果を残すことが出来ました。

男子の初陣を切ったのは、男子 52kg 級小関。昨年の世界チャンピオンの前に今年は強国ロシアの選手 2 人が襲い掛かります。セコンドの岡村コーチに助けられながら、ベンチプレスでは銀メダルを獲得。続くデッドリフトは、トータルでのメダル獲得が絡んでくる物凄い接戦のなか前年度の王者の意地で 3 本目を見事成功させこの種目で銅メダル獲得、トータルでも銅メダルを獲得しました。



トータル銅メダルを決め、吼える小関

～大会 2 日目～

大会が進むに連れて、試合の進行もスムーズになってきました。

男子 60kg 級に長瀬が出場。ベンチプレスでまさかの失格になったものの、その他の種目では来年以降に大きな期待を持たせる結果を収めました。今回の反省を活かし心身共に更に強くなってくれるでしょう。

女子 60kg 級には伊賀が出場。非常にレベルの高い選手が揃う階級であり、トータルではメダルに届かなかったものの、自己ベスト記録を更新。得意のベンチプレスで銅メダルを獲得するという意地を見せました。



試合を無事に終えた伊賀
セコンドの岡村コーチとサブセコンドの黒田

～大会 3 日目～

男子 75kg 級に「最も金メダルに近い男」三宅が満を持しての登場。ベンチプレス 3 本目において 243.5kg を挙上し、なんと一般の世界新記録を打ち立て、堂々の金メダルを獲得しました。トータルでも銅メダル獲得、全日本ジュニア記録更新と素晴らしい結果を残しました。

女子 75kg 級には真野が出場。試合開始が 21:00 開始と遅いなか自分の持てる最大限の力を出し切り、デッドリフトで自己ベスト更新、トータル 8 本の成功を収めました。初の国際大会を本当に楽しんでいました。

なお、この日は三宅のご両親が試合会場まで応援に駆けつけてくださりました。息子のためにフランスまで来てくれるなんて本当に素晴らしい御両親です。

そして、そんな両親の見ている前で、金メダルを獲り、さらに世界新記録まで打ち立てた三宅は本当に親孝行者だなと思います。ご両親もとても喜んでいらっしゃいました。



応援に駆けつけてくださった三宅のご両親

～大会 4 日目～

日本人選手の試合はなく、夕方までフリータイムだったので、ホテル付近を散歩したり、スーパーへ買い物に行きました。夕方からはドーピングセミナーに参加し、ドーピングの危険性などを学びました。

～大会5日目～

大会最終日ということもあってみんな疲れが溜まってきていましたが、最後まで日本人選手の応援を頑張りました。

大会終了後はレセプションが開かれ、浴衣や甚平を着て日本をアピール。外国の人には浴衣は珍しいらしく、大うけでした。様々な国の人達と交流ができて、みんなそれぞれに楽しんでいました。



最終日のパーティに浴衣や甚平を着て参加
左上：写真に写りそびれた藤谷氏♪

～大会を振り返って～

長いようで本当に短い旅でした。大会中様々な国の人と触れ合い、世界の広さを肌で感じることができました。また、日本選手団は皆団結し、良い雰囲気の中お互い助け合えたと思います。

セコンドは岡山大学の選手だけでなく、日本選手団みんなを勝利へ導くべく、大会中ずっと会場を動き回り、大活躍でした。

世界大会を経験すると、自分の今までの価値観が変わります。この歳でこのような経験ができることの素晴らしさを実感し、今回学んだことを部員に伝えていきたいと思います。本当に素晴らしい大会であり、一生の思い出です。



ベンチプレスで一般の世界記録を樹立！
三宅の試技が今大会一番の盛り上がりでした

～最後に～

今回も世界大会に出場するにあたって、たくさんの人にご支援・ご声援をいただいて本当に感謝しています。また、日頃からからお世話になっているOB・OGさんや後援会並びにコーチングスタッフ陣の皆様本当にありがとうございました。



一致団結していた今年の日本選手団

我々がこのような素晴らしい経験をする事ができたのも皆様のおかげです。

また、日本から応援してくれている部員、家族、友達も心の支えになりました。たくさんの人に支えられて今まで頑張ってきた事ができたと思います。今回の経験をバネに今後もよりいっそう頑張っていこうと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

(文責：小関祐生)